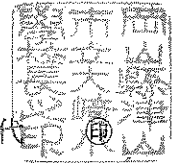


(様式)

平成 25 年度 津山市立大崎小学校

学校評価書

大崎小学校長 甲元 真佐代



1 自己評価

I 評価結果

学校マネジメント上の課題は大きいが、当初の努力目標を概ね達成できた。

II 分析・改善方策

- ① 岡山県の「魅力ある授業づくり徹底事業」を受け、講師の先生のご指導をいただきながら、授業改善に取り組んだ。昨年度に引き続き、主に、授業における課題の与え方、「学び合い」の場の設定や手立てについての授業研究を行った。また、指導教諭の公開授業を通して、「学びのトランポリン」に児童を載せるための手立てを考えた。しかし、学習規律が十分に定着せず、学力向上につながらなかった。
- ② 本校の特色のひとつである体験学習や縦割り集会等を通して、思いやりや感謝の気持ち、リーダーの育成をした。年々地域の人たちの協力も増え、ふるさと学習やふれあい遊びが充実してきている。
- ③ 「みそあじ」の取組は多数の家庭に浸透しつつある。学校では、特に「時間を守る(チャイムの合図を守る)」を継続的に徹底指導した。
- ④ 基本的な生活習慣の定着状況も個人差が大きい。言われないとできない児童が固定している。季節に応じて水泳特訓、冬季のマラソン等を実施した。健康な児童が多いが、体力のバランスがとれていない。授業に位置付けた意識的な体力作りが必要である。
- ⑤ 参観日、学校行事等への参観者・出席者は多く、熱心で協力的である。地域の人は学校に対して関心が大きく、見守り隊や学習支援等で学校とのつながりができている。一日参観日でも、多くの参観があり、学校理解を図ることができた。保護者による授業見守り隊も増えてきている。

2 学校関係者評価委員会

清原 三郎(連合町内会町) 龍門 勝美(町内会長) 植月 秀俊(福力総代) 神崎 博彦(有識者)
茅野 大治(大崎っ子サポーター) 連佛 達(学校連絡業務員) 廣幡 克彦(民生児童委員)
落合美和子(民生児童委員) 神崎 高司(見守り隊代表) 井上規差子(大崎公民館長)
神田 裕美(PTA 会長)

3 学校関係者評価

- 学年に応じた学習規律を育てることが大切である。高学年は落ち着いてきた。
- 学力を支えている基本的な生活習慣の育成や家庭学習、読書習慣等に対する保護者の意識を高めていく必要がある。保護者が学校の取り組みを支援するように具体的な働きかけが必要である。
- 縦割り班の交流学习や地域の人とのふれあい学習はとても充実してきている。大崎小学校の特色として今後も大切にしていきたい。
- 子育てを学校に依存しすぎている。親支援も必要である。地域からの働きかけをしながら、みんなで子育てをしていかななくてはならない。学校はしっかり発信してほしい。
- 見守りや交流を通して人間関係ができている児童は、よくあいさつをするが、帰りや休日はできない児童が多い。学校、PTA、地域が同じ歩調であいさつ運動をすればよい。
- ルールやマナーが守れない児童が増えてきているのではないかな。学校だけでは難しい。

4 来年度の重点取組(学校評価を踏まえた今後の方向性)

- 基礎学力の定着に向けて
 - ・ 「魅力ある授業づくり徹底事業」を進め、学習規律の定着と授業改善をする。
 - ・ 実態に即した補充学習(サポートタイム・朝学習・長期休業中の補習等)をする。
 - ・ 家庭学習・読書習慣・基本的な生活習慣等の実態を知らせ、具体的な取り組みを学級懇談等で呼び掛ける。
 - ・ 小・中連携をしながら、一貫した学びの姿勢を育てる。
- 児童会活動、縦割り班、ふれあい活動等を通して、様々な関わりを広げるとともに、自主性を育てたりリーダーを育成したりする。
- 特別支援教育の充実。全体で共通理解を図りながら、通常学級の特別支援を必要としている児童への個別の配慮をする。
- バランスのとれた体力づくりをするために、具体的な活動を教育課程に位置付け、体育学習の中で継続的に取り組む。
- 地域の人材を活用しながら体験学習や実技学習を充実させると同時に、地域の人たちへ幅広く学校を公開する。
- 教育相談体制を整え、児童・保護者としっかり向き合う姿勢を大切にする。
- 家庭・地域と連携しながら、学校を起点にしてあいさつ運動を広げていく。